

よいことのために
手を取りあおう
UNITE FOR GOOD

第2670地区テーマ

地域密着の
ロータリーを目指そう



中村ロータリークラブ

例会記録 (2025～2026)

会 長/川 村 公 彦

幹 事/久 保 田 美 世

会報委員長/永 木 寛

創 立/昭和38年10月2日

例会日/水曜日 12:30～13:30

例会場/新ロイヤルホテル四万十

事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F

TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553

●ホームページ <https://nakamura-rc.net/>

週報 No.2859

第2990回 令和7年11月18日(曇り)

本日のプログラム：米山奨学生卓話例会(四万十、宿毛RC合同)

11月26日(水)：ゲストスピーチ 慶祥 芳之様(日本舞踊家)

12月3日(水)：クラブ年次総会 / 会員スピーチ 本田常晴会員

米山奨学生を迎えて～四万十 RC、宿毛 RC、中村 RC 合同例会

【会長挨拶】白木久雄会長(四万十RC)

皆さんこんにちは。本日は米山奨学生を迎えての中村・宿毛・四万十3RC合同例会ということでお集まりいただきありがとうございます。また中村クラブ様には準備等お手伝いいただきありがとうございます。

本日は、イランからお越しの米山奨学生 ザンドバキリ・ゼイナブ様に卓話を頂きます。世話クラブの仁淀ロータリークラブ 門田 義仁 カウンセラーにも御同伴頂いております。そしてゲストで高知中央ロータリークラブ創立40周年実行委員会委員長の西川英裕様に来ていただいております。本日もよろしくお願い致します。

西川英裕様(高知中央RC)

高知中央RC創立40周年実行委員長



皆さんこんにちは。本日は私も高知中央ロータリークラブ創立40周年記念式典のご案内にまいりました。1986年2月1日に創立いたしまして、来年2月で、40周年を迎えることとなりました。

2026年2月7日に、記念式典を予定しております。また、17時30分からは懇親会を行います。翌2月8日には、高知黒潮CCで記念ゴルフコンペを開催いたします。皆様には、ぜひご臨席を賜りたいと心よりお願い申し上げます。



川村会長とザンドバキリ・ゼイナブ様



【本日のプログラム】 ゲストスピーチ ザンドバキリ・ゼイナブ様（米山奨学生）



カウンセラー 門田義仁様（仁淀 RC）

私は米山奨学生、ザンドバキリ・ゼイナブさん（ニックネーム＝ナンシー）のカウンセラーであります、仁淀クラブの門田です。現在彼女は、高知大学で、海洋生物の研究をされております。日本語が非常に上手です。それでは、ナンシーさんの「自己紹介と私の研究」ということでよろしくお願いします。



自己紹介と私の研究 ザンドバキリ・ゼイナブ様

皆さん初めまして。ザンドバキリ・ゼイナブと申します。ニックネームはナンシーです。簡単に自己紹介をさせていただきます。イランから来ました。高知大学の高知コアセンサーで生物学の修士2年生です。

イランにいた頃は、芸術的で創造的な活動を楽しんでいました。伝統的なペルシャの楽器でサントゥルを演出し、手作りのキャンドル作りも好きです。私はイランの大家族で育ちました。父、母、二人の兄弟と二人の姉妹。今は夫と一緒に日本で暮らしています。私の姉は日本で博士号を取得し、それが私の留学へのきっかけになりました。

それでは、私の国について簡単に紹介させていただきます。首都であり、最大の都市はテヘランです。イランの言語はペルシャ語です。故郷はテヘランですが、もともとはシラーズ出身です。シラーズは歴史のある町です。観光地ペルセポリスはこの町にあり、約2500年前に建てられました。

私はザンドの子孫です。私の先祖であるカリムハンは18世紀のイランの支配者です。カリムハンは人々の福祉を大切に公正な支配者として知られています。イランは石油とガスの資源を持ち、また伝統的な絨毯も有名です。一枚の絨毯を作るのに、数ヶ月から何年もの間かかることがあります。絨毯はシルシャの芸術、歴史、文化を表しています。

イランの自然について紹介します。イランには、山、森、砂漠、海岸など多様な自然環境があります。四季がはっきりしていて、春の花、夏の暑さ、秋の紅葉、冬の雪が自然を彩ります。

料理は色鮮やかな食材と美しい盛り付けが特徴で、文化を感じさせます。ハーブなどがよく使われています。これらはカルチャーの伝統的な主菜で、豊かな味わいと美しい盛り付けが特徴です。

グリルした肉、料理、香ばしライス、そして色とりどりの野菜が食卓を彩ります。

それでは、私の研究について紹介します。浮遊性有孔虫は、海洋生態系において重要な役割を果たしており、海洋虫で石灰質の殻を形成しています。それらは海面や水中全体にわたり、さまざまな深度に生存しています。死後、その殻は堆積物中に化石として保存され、過去の海洋環境を復元するための貴重な指標となります。以前は、研究者たちはそれぞれの有孔虫が一つの分布を持つグループで考えていましたが、分子研究によって、その一つのグループの中に、複数の遺伝的タイプが存在することがわかりました。私の研究は、これらの隠れたタイプを見つけて理解することに焦点をあてています。

最後にイランと日本の興味深い共通点について話したいと思います。ご存知のように、日本では仕事の後に「お疲れさまです」と言って、お互いの労をねぎらいます。この表現は英語には直接的な対応、表現がありません。興味深いことに、イランでも似たような表現があり、「ハステ・ナバシ」と言って、お疲れ様という意味で使われています。以上です。ありがとうございました。

《謝辞》 川村公彦会長

ナンシーさん、本日はありがとうございました。イランと日本の関わりで思い出すのが、百田尚樹の本『海賊と呼ばれた男』の中で、出光がイギリスに支えられているイランの国を突破して、イランで石油を売っていただいた。それから日本の国がまた元気になったというお話です。

非常にイランと日本という国は、親密でいつまでも仲良くしていただきたい国だと思っております。本日はありがとうございました。